

第244号 (22期 第9号)

発行・光が丘パークタウン
ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-11-511

TEL03 (3977) 0228番

発行責任者 塩 原 継 雄

ゆり北

ゆりの木北自治会では、11号棟
前の防災倉庫に除雪スコップを
用意しています。雪が降った時
は倉庫を開放しますので、自由
にお使いください。

ゆり北'04年末↓'05年始

今年の年越しはいかがでしたか

真夏のように暑かった

年末大掃除

前夜から降りだした雨に、今年の年末大掃除は中止になってしまったのかと心配しましたが、台風並みの強風を伴った雨も朝には上がり、二七二名のご参加をいただき、予定通り一二月五日(日)に実施することができました。

晴天を願って吊るしたてるてる坊主の効果があり過ぎたのか真夏のような気温と、雨で地面に張り付いた落葉の回収には大変苦労しました。また、落葉を腐葉土として利用するため赤塚新町公園の集積所まで運ぶ作業も加わって、時間も多くなりました。しかし終了後には五号棟集会所前に用意したおしるこや飲み物に多くの方が並び、短時間でしたが、日頃なかなか話をする機会がない方達との交流もできました。

今回のおしるこにはお餅が入りました。手間も人手もかかるためにためらいもありましたが、お餅の提供から下ごしらえまですべて引き受けてくださったゆりの木商店街「水車」の店長さんの「皆さんが喜んでくださるなら協力したい」という温かい

気持ちに動かされました。

毎週のように、けやき通りやゆりの木通りの掃除をしているゆりの木会とクリーンボランティアの皆さんも、同じ思いから実施してくださいと思っています。同じ団地の住民として感謝するとともに、できる限りの協力をして、住み良く楽しい団地にしていきたいと思っています。

参加してくださった皆様のおかげで、無事に年末大掃除が終了したことに感謝いたします。ありがとうございました。

生活環境部

少なかった不法駐車

歳末パトロール

恒例の歳末夜間パトロールを二月二五日(土)から三〇日(木)までの六日間実施しました。夜九時三〇分から約一時間、拍子木に合わせて「火の用心」を呼びかけ、要所を懐中電灯で点検しながら団地内を巡回し、不法駐車など気付いたことを記録しました。雪が降った二九日を除けば天候も穏やかで星が良く見え、月もきれいでした。二六日が満月だったそうです。二八日には志村消防署か

ら三名、二九日には志村消防署成増出張所から二名の署員がみえ、励ましをいただきました。

パトロール参加者は自治会役員、住宅管理組合役員、自治会世話人で、延べ五九名でした。ご参加いただきました皆様、寒い中ありがとうございました。

以下に、パトロールの結果を報告します。

一、不法駐車は六日間で四〇台でした。昨年は五日間で七五台でしたから半減です。特に、例年不法駐車が多く見られる五号棟西側、六号棟東側、一〇号棟東側はわずか一台でした。これは、住宅管理組合が行った線の引き直しで駐車禁止場所が明確になったことによると考えられます。二、一四号棟東側の不法駐車がもっとも多く、六日間で二六台でした。うち二台は六日連続で駐車しており何らかの対策が必要と思われます。三、一号棟周辺に壊れたものを含め放置バイクが五台ありました。四、二号棟南側の駐車場との間の軒下にホームレスのものと思われるふとんがあり、ゴミとして処理しました。

防犯防災部

住民防災組織からの提言

地震対策

オムツや粉ミルク・離乳食の準備
そしてトイレ対策

震災時の配給では、乳幼児向けの粉ミルクや離乳食は、直ぐには期待できそうにもありません。また成人用も含めてオムツも難しいようです。では自分で何日分準備すれば良

いかと言えば、できれば一週間分位、とてもそんな大量には家の中に置けないということであれば、通常買い置きしてある二〜三倍準備してみてはいかがでしょう。

さて、新潟県中越地震や阪神淡路地震では、トイレ不足が大きな問題でした。

水の部分が損傷しやすいのです。下水道が破損した場合は、当然、水洗トイレは使えません。仮設トイレの数も足りず、また、日頃使い慣れていない仮設トイレでは、十分に用を足せない人もいます。

一方で、ゆり北団地の建物が壊滅的な状況にはならないと考えるならば、下水不要の簡易トイレを自宅内に準備してみてはいかがでしょう

例年より小さかったゴミの山

年末年始の集積所

昨年(の会報「ゆり北」一一月三〇日号で、新年のゴミ集積所をゴミの山にしないために協力を、と呼びかけました。年末には、年末年始のゴミ収集日をお知らせするポスターを作って各棟の掲示板と集積所に掲示し、ゴミは年末最後の収集日までに出すようお願いしました。その効果があつたのか、年始のゴミの山は例年と比べて小さく、コンテナの外に置かれたゴミは少なかったように思います。ただ、昨年は二月三〇日が収集最終日であり、しかも三十一日は大雪でゴミ出しに行けなかったという状況が幸いしたと言えなくもありません。これからも毎年粘り強く取り組んでいかなければと思っています。

年末から一週間近くベランダにゴミを保管してみると、家庭から出るゴミがいかに多いか気付かれます。缶、ビン、ペットボトルなどの資源ゴミを分別してゴミの削減に努め、またラベルを剥がしたり、中を洗ったりと少しの手間をかけることが資源の有効利用に役立ちます。「自分一人ぐらいなら……」と思うことは簡単ですが、「自分一人だけでなく……」と思う気持ちが集まれば、いろいろな問題に対処していける大きな力となることでしょう。皆様のご協力をお願いいたします。

生活環境部



初めての雪かきとその教訓

昨年末二回雪が降り積もりました。たまたま在宅だった私は、二回プラスα雪かきを体験しました。北海道生まれの私にとってゆり北で初めての雪かきでした。

二月二九日に最初の雪が降りました。どうしようかと思っていたら、塩原自治会長が一人で雪かきをしているのが見えたので、おっとり刀で助太刀に行きました。二人でとばとば一〇号棟から商店街までの雪かきをしました。

二月三十一日に二度目の雪が降りました。またどうしようかと思っていたら、一人とばとば一〇号棟から商店街まで雪かきをしている人がいます。また会長かと思いついて駆けつけると別人でした。お名前を聞きましたら一〇号棟のIさんでした。二人でしょぼしょぼ雪かきをしました。

年が明けてから、安倍事務局長の要請で、一二号棟集会所前広場(通称空中公園)の除雪に動員されました。この時は、降雪からだいぶ経っていて雪が凍っていたので、除雪に苦労しました。

教訓一 雪かきは降っている最中に行うべし。最初に雪が降った時、スパーよしやではほうきで除雪して積もるのを簡単に防いでいました。

教訓二 雪かきは、皆で行うべし。その方が早く終わります。皆さん次回からよろしく願います。

教訓三 東京といえども除雪するといけないは大変。三三番街の北側は除雪等なにもなかったの、通常の歩行ができるまでにかかりの日数がかかりました。

久しぶりの雪かきは子供の頃に帰ったようで楽しく、また良い全身運動になりました。

一〇号棟 G

私のエコ活動

市東 隆光

私のエコ活動の歴史は古く、昭和四六、七年頃からであります。マイク付トラックで街中を走り、古新聞・雑誌を回収する業者が出始めた頃でした。その頃、私は豊島区の社会教育委員会に登録する豊島スポーツクラブという団体活動を開始し、その活動資金の一助とすべく古紙の回収を始めました。月一回日曜日に軽トラックで会員宅や理解ある知人宅を回り、夕方、荷台を満杯にして仕切り屋さんへ持つて行くと、一万数千円で買い取ってくれたのです。これは当時会員八〇数名で月三百円会費を集めていましたから、五百人分のそれと同じ額だったわけで、貴重な財源でありました。

この仕切り屋さんには三、四回目の古紙を運んだ時のこと、奇妙な光景に会いました。くず鉄などが入り口近くまで積まれた横に、真新しい洗濯機が置いてあるのです。ご主人に「これは」と聞くと「くず鉄として引き取ってきたもの」と言うのです。あるマンションで、隣が最新式全自動洗濯機を買ったのを見せつけられた奥さんが、自分のところも全自動洗濯機を買ったので三週間前に買ったばかりの洗濯機をくず鉄屋さん処分して下さいと頼まれたというのです。新古品の売買など生まれる前の話とはいえ、これには何と驚かされたことか。

四歳から五〇余年住んだ豊島区では昭和四〇年代からゴミの七品目分別収集が始まりました。私は日常のエコ活動として、ゴミの集積所の品別整理等、特に空き缶を潰して出す、古新聞・雑誌を紐で縛る、後にはペットボトルの中を水洗いしてラベルを剥がし、潰して容積を三分の一以下にする、特に二リットル以上

の大きなものは四分の一から五分の一以下になるまで減量してまとめるなど行ってきました。

豊島区は、ペットボトルの回収を始めて五年で非常用毛布を八千枚備蓄用意できました。古紙の再利用製品はよく目にする機会があると思いますが、アルミも、原料から製造すると大電力を使用してしまうのであります。アルミ缶を再利用することによりかなりの省エネルギーの手助けを皆で出来るのです。資源の無い国に生まれて、もっと多くの人にゴミ減量、再利用のゴミ出しを徹底したいものです。

練馬区に五年住んだ後、一昨年秋より北団地に引越してきました。六三歳の今も、このゴミ減量運動は継続しています。団地にはかなりのスペースのゴミ集積所があり何時でもゴミ出しが出来るため、また可燃ゴミ、不燃ゴミの分別もせず、資源ゴミも一緒に出してしまいう人もいて、一週間何もしないとコンテナは山盛りになります。約半年間、二日置き位に集積所の整理をやってみました。その結果、一週間で四〇リットルのゴミ袋にペットボトル五袋と発泡スチロール三袋を回収し、ゴミは収集日でもコンテナすれすれまで減りました。

さて、昨年九月のある日、何時ものように朝六時頃ゴミ集積所に入り、可燃ゴミの中から新聞紙、雑誌を出して紐で束ね、不燃ゴミのコンテナを覗くと、透明のビニール袋に入れたお米二〇キロくらいが一番上に見えるではありませんか。私がスーパードで買うお米と同等に見えるものでしたので家に持ち帰り、半日干して太陽殺菌をすませ、試しに一合ほど炊いてみました。我が家

で日常食べているお米と全く変わリません。私は想像してみました。このお米を捨てた若者は、実家から新米が送られて来て、家にあった昨年のお米を捨てたのではと。私は子供の頃から母に「お米はお百姓さんが八八種の手入れをして大切に育てたもののだから、粗末にすると目がつぶれる」と言われてきましたので、数粒のお米でも落ちていれば拾ったものです。昔の洗濯機事件以来三〇数年ぶりに驚いたことでした。

今の人は、金さえ出せば何でも買えるという感覚しかないのがかわいそうに思えてきます。物の尊さを感じる感性が欠落し、他人の痛みを推し量ることができぬゆえ、恐ろしい事件が次から次へと起きてくる時代

みんなですれば 階段掃除もまた楽し



「今度、野草摘みに行かない？」
「うちの子、会った時、きちんとあいさつしていますか。」

「この頃、新聞屋さん、ゴミ袋を置いていつてる？」そんな話をしながらの階段そうじが始まって、一〇年以上が経っています。中層棟ということで、同じ階段を使う者同士、一〇軒で声をかけ合い、月一回そうじをしています。

五階の家から、バケツで水をかけながら、デッキブラシで汚れをこすり、モップで水を流し、ぞうきんでふきとります。夏は、けっこう汗だくになり、そうじ後はシャワーをさするほどです。階段もすっきり、体もさっぱりとします。

日曜の朝、仕事があったり、具合が悪かったりする人もいますが、皆で手伝いながら、続けています。私もフルタイムで働いているのですが、あまり会えない近所の方とも親しく話せるようになりました。

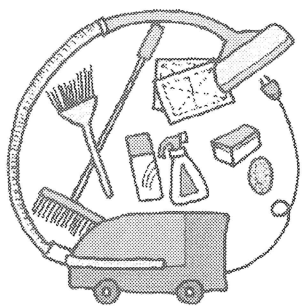
になってしまったのではないでしょう。今年ほど災害の続いた年も珍しく、この後とんでもない災害が無ければと願っています。避難生活をしている老若男女の姿をテレビ報道で見て、お米を捨てた若者は何も感じないのだろうか。感じるような人は捨てたりしないだろうが、自分の生活態度を猛省して欲しい。このような若者を育てた親の責任を、私は皆さんに訴えたい。

日本の戦後、復興期以降バブル期までの資源の無駄使いを考えたとき、近年の異常気象は世界的なものと片付けているのを反省しなくてはいけない、と考えるのは私一人ではないと思いたい。

団地生活だと近所づきあいも稀薄になりがち（？）というこの頃、そうじをしながら、それから、そうじの後、あれこれ話を楽しみなが親睦を深めています。

八号棟 F

ゆり北の分譲中層棟では、通常の階段掃除は居住者に任せられています。清掃の状況は、当番制で行う、一部の人の善意に頼る、汚れを放置するなど様々ですが、中には、住民が定期的に一斉に掃除をする階段もあります。



小淵沢だより

吉柳 俊孝

小淵沢町に移転して三回目の正月を迎えました。少しずつ地域の雰囲気にも慣れてきたように思います。前回の投稿以来ほぼ二年ぶりの「小淵沢だより」をお届けします。

一昨年一二月の篠原区総会で衛生委員となり、五人の衛生委員の中で衛生長を引き受けることになりました。衛生委員はゴミステーションの管理、資源ゴミの回収日の整理、道路・側溝などの清掃、草刈など、年間を通じて地域の環境問題に取組みます。篠原区は別荘の多いところで、住宅約七千戸のうち五百戸を占めています。また、二百数十戸の定住者のうち、区への加入者はほぼ半分。五月末には未加入者への協力依頼を求めて懇談会を実施し、ゴミステーションの整理日や地域の清掃日には少しずつ協力を得られるようになりました。昨年一二月一九日で一年間の任期を終わりホッとしているところです。

町が小さいだけに、様々な事柄で行政と住民が近いことを感じます。特に生涯学習の面では多くの事業が展開されています。「文学講座」「歴史講座」「山梨学院大学連携講座」などです。また、図書館のボランティア（地域資料の分類整理や装備など）をしていることもあって、図書館まつり実行委員も依頼されました。今年は、町在住の作家・川上健一さんに講師をお願いしま

した。

県レベルでも「山梨学講座」というユニークな講座があり、もう何年も続いているそうです。様々な切り口で五つから六つのテーマについて行われています。一つのテーマで四講座を一区切りにし、県内講師を中心に県外からも講師を招聘して行われます。昨年初め、「山梨の山」シリーズの「山と芸術」という講座から参加しました。甲府まで四〇分、電車に乗って出かけます。車内の読書も良い時間です。

この他「八ヶ岳自然クラブ」「八ヶ岳南麓景観を考える会」「小淵沢写真クラブ」に参加しています。それぞれ月一、二回の会合や観察会、撮影会などがあり、多くの新しい友人を得ました。

一方、我が家の家庭菜園（約三〇坪）ではトマト、きゅうり、なす、ピーマン、インゲンまめ、スナックエンドウ、ジャガイモなど夏野菜は良く出来ましたが、秋は種まきが一寸遅れたことと一〇月の長雨にたたられ、やや不作でした。野沢菜、大根などはまあまあでした。十一月から四月までは寒冷地のため畑はお休みです。少しずつ学んで行きたいと思っています。

スローライフをと思いつつ、ついつい手を出しすぎて、かえって忙しくしています。今年はもう少しノンビリ楽しみたいと思っています。

（筆者はゆりの木北自治会・前会長。第三期から第一九期まで務めた。山梨県北巨摩郡小淵沢町在住）



秋の小淵沢・篠原より望む甲斐駒ヶ岳